



十六銀行



十六総合研究所

2023年2月28日

各位



株式会社カケフホールディングスとの ポジティブインパクトファイナンス契約の締結について

株式会社十六銀行（頭取 石黒 明秀、以下「当行」といいます。）および株式会社十六総合研究所（社長 高橋 義信、以下「当社」といいます。）は、株式会社カケフホールディングス（代表取締役 掛布 拓雄）とポジティブインパクトファイナンス（以下「PIF」といいます。）契約を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

PIFは、当行および当社にて、事業者さまの活動が外部（環境・社会・経済）に与えるインパクト（影響）を評価（特定・分析）し、ポジティブなインパクトの創出とネガティブなインパクトの低減に資するKPIを設定のうえ、定期的なモニタリングを通じてその達成に向けた取組みを支援していくことを目的とする資金調達手段です。

当行および当社は、PIFを通じて事業者さまと共通価値の創造をはかり、ともに持続的な成長を目指してまいります。

記

1. PIF契約概要

コース	ローンコース
融資金額	480百万円
資金使途	設備資金
期間	15年

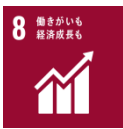
2. 企業概要

所在地	岐阜県可児市二野1979番地150
事業内容	<p>【株式会社メトーカーフ】 建築板金金属工事 一般建築資材卸販売 鉄板製折版、屋根、壁、成型加工・販売</p> <p>【株式会社スタールカケフ】 鋼材一次製品卸販売・加工 鉄筋・土木工事・ガードレールフェンス工事</p>

事業内容	【株式会社カケフ鋼板】 家電・ガス機器・住宅メーカー部材加工・販売 【株式会社カケフ住建】 住宅資材加工（住宅メーカーのオーダー製品） エネルギー資材の加工・販売
設 立	1989年12月
資 本 金	50百万円

3. インパクト評価（要旨） ※ 詳細は後掲の「評価書」をご参照ください。

特定インパクト	K P I	関連SDG s
環境に配慮した事業活動	【株式会社カケフホールディングス】 <ul style="list-style-type: none"> ・2030年までにコピー機のカウンター数を2023年比で20%削減する。 ・廃棄物関連法規違反0件を維持していく。 【株式会社メトーカーフ】 <ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに自社所有フォークリフトを全てEV化する。 【株式会社カケフ鋼板】 <ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに簡易梱包納入取引先数を6先以上とする。（現状2先） ・2030年までに木材スキット回収取引先数を7先以上とする。（現状3先） 	  
環境に優しい商材の普及	【株式会社カケフ住建】 <ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに再生可能エネルギー推進に資する商材を新たに2タイプ開発し、発売する。 	 
高品質かつ安全な製品の供給	【株式会社カケフ住建・株式会社カケフ鋼板】 <ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001（品質マネジメントシステム）認証を維持していく。 	  
地域貢献	【株式会社カケフホールディングス】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年インターンシップを開催する。 ・毎年の新卒採用を継続していく。 ・2024年から2030年まで累計10名以上新規採用する。 	

<p>安全・安心な 職場環境の整備</p>	<p>【株式会社カケフホールディングス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2030年までに月に1度以上のノー残業デーを新設する。 ・ 男性社員の育児休暇の取得を推進し、希望者については100%の取得を目指す。 ・ 定期健康診断受診者100%を継続する。 (※一部パート社員を除く) ・ 毎年の重大労災事故（被災者の休業が4日以上となる事故）発生件数を低減していく。 	
---------------------------	---	---

以 上

【本件ご照会先：経営企画部 広報・IR室 TEL 058-266-2511】

株式会社カケフホールディングス
ポジティブインパクトファイナンス評価書

2023年2月28日



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

十六総合研究所は、十六銀行が株式会社カケフホールディングス（以下、「カケフホールディングス」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクトおよびネガティブインパクト）を分析・評価した。この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンススクワースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、十六総合研究所が十六銀行と共同で開発した評価体系に基づいている。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

目次

1. 企業概要と理念、サステナビリティ	- 3 -
(1)カケフホールディングスの概要ならびに経営理念	- 3 -
(2)カケフホールディングスのサステナビリティ	- 10 -
2. インパクトの特定	- 11 -
(1)事業性評価	- 11 -
(2)バリューチェーン分析	- 12 -
(3)インパクトレーダーによるマッピング	- 13 -
(4)特定したインパクト	- 16 -
(5)インパクトニーズの確認	- 21 -
(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認	- 23 -
3. インパクトの評価	- 24 -
4. モニタリング	- 28 -
(1)カケフホールディングスにおけるインパクトの管理体制	- 28 -
(2)当社によるモニタリング	- 28 -

1. 企業概要と理念、サステナビリティ

(1)カケフホールディングスの概要ならびに経営理念

【企業概要】

企業名	株式会社カケフホールディングス
所在地	岐阜県可児市二野 1979-150
代表者	代表取締役 掛布 拓雄
創業	1948年3月
設立	1989年12月
資本金	5,000万円
売上高	199億円（令和4年8月期・グループ全体）
従業員数	259名（令和4年8月末・グループ全体）
グループ会社	<p>株式会社メーカケフ（以下、メーカケフ） 所在地：（本社・本社工場）岐阜県可児市姫ヶ丘4丁目1-3 （名古屋営業所）愛知県名古屋市西区牛島町2番5号 事業内容：・建築板金金属工事 ・一般建築資材卸販売 ・鉄板製折版、屋根、壁、成型加工・販売</p> <p>株式会社スーパールカケフ（以下、スーパールカケフ） 所在地：（本社・本社工場）岐阜県可児市姫ヶ丘1丁目17 （流通センター）岐阜県可児市姫ヶ丘1丁目35 事業内容：・鋼材一次製品卸販売・加工 ・鉄筋・土木工事・ガードレールフェンス工事</p> <p>株式会社カケフ鋼板（以下、カケフ鋼板） 所在地：（本社・本社工場）岐阜県可児市姫ヶ丘1丁目36 （名古屋営業所）愛知県名古屋市西区牛島町2番5号 事業内容：・家電・ガス機器・住宅メーカー部材加工・販売</p>



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

	<p>株式会社カケフ住建（以下、カケフ住建）</p> <p>所在地：（本社・本社工場）岐阜県可児市二野 1979-150 （関東工場）茨城県笠間市稲田白石 3888 番地 13</p> <p>事業内容：・住宅資材加工（住宅メーカーのオーダー製品） ・エネルギー資材の加工・販売</p>
許認可事項	<p>特許 第 1267696 号</p> <p>特許 第 6532761 号（カケフ住建）</p> <p>ISO9001 認証取得（カケフ鋼板 姫ヶ丘工場）</p> <p>ISO9001 認証取得（カケフ住建 住宅建材事業部）</p> <p>一級建築士事務所 岐阜県知事登録第 12597 号（カケフ住建）</p>

【企業沿革】

1948年3月	トタン板の販売事業者として創業
1958年10月	合資会社掛布金属材料店を設立
1959年	伊勢湾台風による被害復興のため、緊急援助物資の配給指定店となる
1960年	鋼材(丸棒 C 型鋼、アングル)などの取扱いを開始 (現スタールカケフ取扱い商品)
1962年	屋根、壁材の加工設備を新設(現メト-カケフ設備) オーダー製品の製造開始
1973年12月	可児市下恵土にて本社事務所竣工
1976年	可児工業団地にて姫ヶ丘第一工場竣工（現スタールカケフ工場） 鉄鋼一次製品の一次加工設備完成
1981年	熱融着ライン1号機特許取得（現メト-カケフ設備）
1984年	高級鋼板用シャー、ベンダー、パンチングマシンなど、NC 付機械を増設し、内外装工事オーダー製品製造開始（現カケフ鋼板・カケフ住建設備）
1987年	姫ヶ丘第二工場竣工(現カケフ鋼板工場) レベラーシャーライン新設
1989年12月	メト-カケフ設立 合資会社掛布金属材料店の業務を引き継ぐ 合資会社掛布金属材料店は、不動産管理会社として存続
1990年4月	姫ヶ丘第二工場にミニレベラーシャーライン新設 家電製品スケッチサイズの製造開始



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

	本社に熱融着ライン2号機設置
1992年10月	姫ヶ丘第二工場にスリッターライン新設
1995年9月	姫ヶ丘第二工場にレベラーシャーライン増設
1997年9月	スतालカケフ設立 メト-カケフの鉄鋼一次製品加工販売事業を承継
1999年8月	第三工場竣工（現カケフ住建工場）
2001年11月	プレノッチ1号機稼働（現カケフ住建設備）
2004年2月	茨城県筑西市にてメト-カケフ関東工場オープン（現カケフ住建 関東工場）
2006年10月	姫ヶ丘第4工場取得（現スतालカケフ流通センター） 兵庫県姫路市にて関西姫路工場オープン（現カケフ住建 関西工場）
2007年10月	合資会社掛布金属材料店から商号を変更し株式会社フェールカケフ設立
2014年5月	二野工場第一期竣工（現カケフ住建工場）
2015年3月	二野工場多機能プレノッチ自動ロール成型ライン5号機稼働
2016年7月	二野工場第二期竣工 二野事務所（現カケフホールディングス・カケフ住建本社）・厚生棟竣工
2016年8月	メト-カケフを親会社、スतालカケフを子会社とする株式交換を実施
2016年9月	住宅事業部 姫ヶ丘第三工場から二野工場へ移設 フェールカケフをメト-カケフへ吸収合併
2017年4月	建材事業部 本社工場から姫ヶ丘第三工場へ移設
2017年5月	関東工場を筑西市から笠間市へ移設
2017年6月	スतालカケフ本社・流通センター 本社工場から姫ヶ丘第一工場・第四工場へ移設
2017年7月	本社 総務部を可児市下恵土から可児市二野（二野事務所）へ移設
2017年9月	ホールディングス制スタート
2019年1月	メト-カケフ・カケフ鋼板名古屋営業所開設



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

カケフホールディングスは、カケフグループを構成する 4 社（メーカケフ、スターカケフ、カケフ鋼板、カケフ住建）の持株会社である。

下記の経営理念を掲げ、創業以来、住宅建材から外装建材、鉄鋼建材、各種鋼板まで多種多様な「鐵（てつ）」のニーズに対し、充実した自社設備と豊富な経験で培われた加工ノウハウにより、きめ細かく対応し様々な産業の「ものづくり」を支えてきた。

「経営理念」

鐵の新しい需要と高付加価値を創造し、社会の発展に貢献する。
お客様の課題解決を通じて信頼関係を構築し、共に永続的繁栄を目指す。
社員の幸福を追求し、広く社会に感謝され、成長し続ける人材を育成する。

グループ各社の事業内容の詳細は、下記の通りである。

「メーカケフ」

メーカケフは「鋼板製屋根材・壁材の製造、販売、施工」並びに「各種工法関連部材の設計・開発・施工」を行っている。

事業ミッションとして「カラー鋼板の新しい価値を創造し、ワンストップで安心、安全の製品を提供する。」を掲げ、耐久性やデザイン性、施工性に優れたカラー鋼板を供給することで、ユーザーの快適な生活の実現に貢献している。

各種成型機に加え、断熱性、遮音性、結露防止機能を向上させるラミネート熱融着設備など充実した設備を整え、創業以来培ってきた加工ノウハウを活かした製造から施工までの自社一貫体制を構築している他、豊富なカラー鋼板ラインナップを取り揃えることによって、顧客の多種多様なニーズに対応している。

●屋根材・壁材



(出所：同社 HP)

●加工設備



(出所：同社 HP)



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

「スーアルカケフ」

スーアルカケフは、「各種鋼材の加工・販売・卸売」並びに「鉄筋加工組立・鉄骨工事・土木工事・施工」を行っている。

事業ミッションとして「限りない鉄の未来を追い続け、確かな加工と物流でお応えする。」を掲げ、鉄骨建築業者や製缶板金事業者へ幅広い製品を供給している。

具体的には、一般鋼材およびステンレス鋼材等の定尺品から、切断加工、穴あけ加工、開先加工、板・パイプ製品等の曲げ加工など幅広い加工ニーズに対応しており、「小ロット多品種・短納期対応可能な鉄鋼製品のコンビニエンスストア」を謳っている。

自社の充実した一次加工設備と加工事業者との緊密な協力体制が、「小ロット多品種」かつ「短納期」での対応を可能としている。

● 鋼材の加工



(出所：同社 HP)

● 加工設備



(出所：同社 HP)

「カケフ鋼板」

カケフ鋼板は、カラー鋼板、表面処理鋼板、アルミ板などノンオイル材の加工に特化したコイルセンターである。カケフ鋼板の製品は、商社を介して、家電メーカー、ガス器具メーカー、プレハブ住宅メーカー等に供給されている。

下記の事業ミッション、品質方針、環境方針を掲げ、高品質な製品の供給に努める一方で、自社事業から生じる環境負荷を認識し、環境保全を念頭に置いた事業活動を行っている。

「事業ミッション」

ノンオイル加工に磨きをかけ、鋼板の需要拡大に努める。

企業統治を確立し、法の遵守・環境保護に努める。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

「品質方針」

お客様一人ひとりの満足を第一に考え、社員一人ひとりが継続的改善を意識することによって、信頼のおける管理と責任を重んじた提案型企業を目指し品質の向上に努める。

この品質方針が理解され、実行・維持する為に次の事を行う。

1. 高品質体制を堅持するため、加工品目をノンオイル材に特化し続けます。
2. お客様の様々なご要望・期待に応え続けられるよう改善活動に努め、50年100年先も一番に選ばれる企業を目指します。
3. 万全の生産・供給体制を確立するため地域社会と連携し前進を図ります。
4. 「常に安全最優先」を周知徹底し、社員とご家族に安心とゆとり・豊かさを提供できる企業を目指します。

「環境方針」

株式会社カケフ鋼板は、地球環境保全活動を事業活動の基本として、社会に貢献する企業を目指し、下記の方針に基づき継続的な企業活動を行います

1. 法規制の遵守

製品及び材料の有害化学物質の管理は、事業活動にあたり、法規制・条例の法的要求事項を遵守します。

2. 梱包資材のリサイクル化

製品スキットのリサイクル、梱包紙の簡素化・省力化の積極的取組みにより、資源の有効活用と環境汚染の予防に努めます。

3. アイドリングストップ化の推進

アイドリングストップによりCO2低減に努めます。

4. 休憩時間の電気消灯

省エネルギーを推進し、電力使用量の低減に努めます。

5. 表面処理材のクロムフリー化

表面処理鋼板のクロムフリー化を進行させています。

カケフ鋼板はキズや凹み等の加工技術に定評があり、電化製品やキッチン製品の外板など高度な品質水準が要求される分野において、確固たる地位を築いている。

カケフ鋼板が施す「バリつぶし」、「粘着ロールによるゴミ取り」、「フィルム貼り」等の加工処理は、細かなゴミ、ホコリを除去してキズや汚れの発生防止を図ることが主な目的ではあるが、家電やキッチン製品の外



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

板などエンドユーザーに直接触れる部分に使用されることが多いことを踏まえ、「仕上がりの美しさ」にも配慮している。

●粘着ロール



(出所：同社 HP)

●フィルム貼り



(出所：同社 HP)

「カケフ住建」

カケフ住建は、「住宅分野から非住宅分野まで鉄に関する各種オリジナル製品の提供」を行っている。

事業ミッションとして「お客様の役に立つ商品、技術を創出し、トータルビジネスサポートを提供する。大ききよりこだわりを、信頼と安心をいただけるパートナーであり続ける。」を掲げており、新たな住宅用建材の創造から新商品の開発・量産ラインの構築提案まで、多種多様なニーズに対応するソリューション・サプライヤーとして、取引先より厚い信頼を寄せられている。

具体的には、躯体、壁、屋根パネル等の「低層システム建築」やエネルギー資材「ソーラー架台」などの設計・部材展開・部材制作・組立加工・現場納品などを自社で一貫対応しており、顧客のニーズに合わせた機能性や納期設定などを実現している。

●壁パネル



(出所：同社 HP)

●ソーラー架台



(出所：同社 HP)



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

(2) カフェホールディングスのサステナビリティ

同社グループは、「ユーザーにより良い暮らしを提供する」ことで、持続可能な社会の実現に貢献している。長年の業歴で培った独自の加工ノウハウと充実した自社加工設備を駆使して、顧客の様々なニーズに沿った商材を展開し、「ユーザーのより良い暮らし」の実現に貢献している。

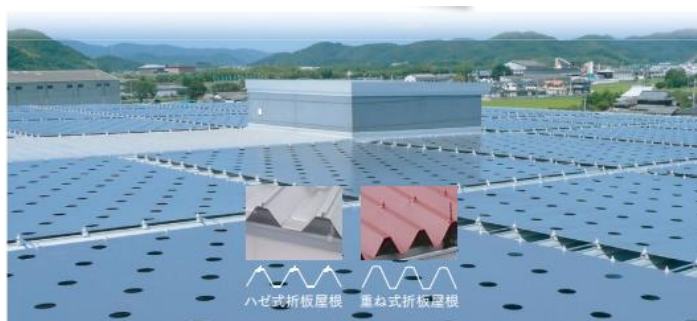
また、近年では環境負荷の低減に資する商材も数多く展開し、持続可能な社会の実現に貢献している。具体的には、既存スレート屋根に2重屋根施工を施し建物の断熱性を高める「スレート屋根改修工法」、屋上遮熱シートの「冷えルーフ」、「ソーラーカーポート」や「ソーラー架台」など、顧客から生じる環境負荷を軽減する商材を多数ラインナップしている。

● スレート屋根改修工法



(出所：同社 HP)

● 冷えルーフ



(出所：同社 HP)

● ソーラーカーポート



(出所：同社 HP)



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

2. インパクトの特定

(1)事業性評価

同社グループの特徴として、住宅建材から外装建材、鉄鋼建材、各種鋼板まで多種多様なニーズに対し、各事業会社の充実した設備と加工ノウハウにより、迅速かつきめ細かく対応できる点が挙げられる。

同社グループは、創業から70年以上「鉄」一筋に拘り、鋼板にまつわる多種多様な商材や加工方法をラインナップしていることから、グループ全体で様々なニーズに対応することができる。また、カケフ鋼板、カケフ住建において ISO9001（品質管理マネジメントシステム）認証取得するなど、品質の高さにも定評がある。

岐阜県可児市を中心に複数の生産拠点を保有し、各事業会社で自社工場と様々な加工設備を整えることによって、顧客のニーズに対して迅速に対応できる体制を構築している。

●品質マネジメントシステム審査登録証



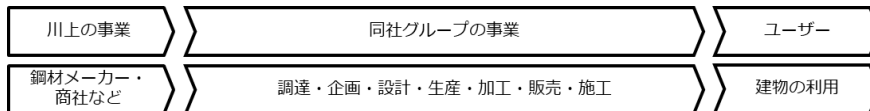
(出所：同社 HP)

(2)バリューチェーン分析

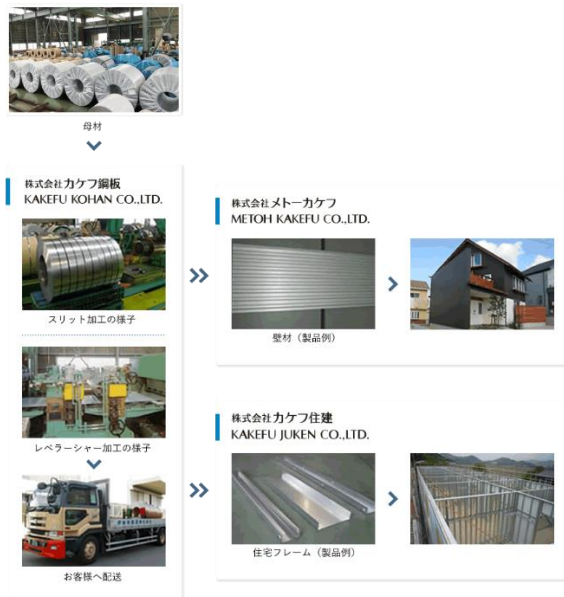
同社グループの製品は、住宅や工場等の建築物、自動車、産業機械など、身の回りのありとあらゆる箇所で使用されている。同社グループの取引先は、一人親方の工務店から大手・上場ゼネコンやメーカーまで非常に幅広く、取引実績は 1,000 社以上に及ぶ。同社グループは、同サプライチェーンの根幹を支える、なくてはならない存在であるといえる。

同社グループは、外装建材事業を手掛ける「メトーカケフ」、鉄鋼建材事業を手掛ける「スतालカケフ」、コイルセンター事業を手掛ける「カケフ鋼板」、住宅建材事業を手掛ける「カケフ住建」の 4 社の事業会社と、これら 4 社の統括管理を行うカケフホールディングスで構成されている。鋼板製の各種屋根材、壁材、住宅部材などの材料仕入から販売施工までをグループ内で一貫して対応することが可能であり、バリューチェーンにおいてもその特徴が見て取れる。

●外装建材事業のバリューチェーン図



●グループ内商流図



(出所：同社 HP)

(3)インパクトレーダーによるマッピング

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。

同社グループの川上、及び、同社グループの事業を国際産業標準分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブインパクト」（以下 NI）を想定する。

川上の事業について「第一次鉄鋼製造業（ISIC:2410）」を、同社グループの事業については「第一次鉄鋼製造業（同 2410）」「構造用金属製品製造業（同 2511）」「金属の処理・塗装・機械加工業（同 2592）」「建築工事業（同 4100）」「建築材料、金物類及び配管・暖房設備器具卸売業（同 4663）」を適用し、発生するインパクトの検証を行った。

○：主要カテゴリ ○：関連カテゴリ

国際産業標準分類 インパクトカテゴリ	川上の事業				同社グループの事業							
	【2410】 第一次鉄鋼製造業		【2410】 第一次鉄鋼製造業		【2511】 構造用金属製品 製造業		【2592】 金属の処理・塗装・ 機械加工業		【4100】 建築工事業		【4663】 建築材料、金物類及び配管・ 暖房設備器具卸売業	
	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
水												
食料												
住居	○		○						○		○	
健康・衛生		○		○					○	○	○	
教育												
雇用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エネルギー									○	○	○	
移動手段												
情報												
文化・伝統										○		
人格と人の安全保障										○		
正義・公正												
強固な制度・平和・安定												
水（質）		○		○		○		○		○		○
大気		○		○		○		○		○		○
土壌		○		○						○		
生物多様性と生態系サービス										○		○
資源効率・安全性		○		○		○		○		○		○
気候		○		○		○		○		○		○
廃棄物		○		○		○		○		○		○
包括的で健全な経済	○		○		○		○		○			
経済収束									○			

同社グループの事業ではインパクトレーダー上で指摘されるすべてのインパクトについて、川上の事業では同社の事業活動と特に関連度が強いと考えられるインパクトについて、検証を加えていく。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

【川上の事業について】

川上の事業については、「土壌」「資源効率・安全性」のカテゴリにおける NI が同社事業との関連度が高いと考えられる。鋼材製造の際に、土壌汚染や鉄資源・水資源・エネルギー等の過度な利用等の NI が発現すると、指摘される。

同社グループでは、環境負荷物質であるクロムを一斉含まないクロムフリー鋼材を積極的に採用するなど、環境に配慮した仕入活動を行っている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.4:化学物質や廃棄物の適正管理により大気、水、土壌への放出を減らす」

【同社グループの事業について】

同社グループの事業については、「住宅」のカテゴリにおいて PI が、「健康・衛生」のカテゴリにおいて PI と NI が、「雇用」のカテゴリにおいて PI と NI が、「文化・伝統」「人格と人の安全保障」のカテゴリにおいて NI が、「エネルギー」のカテゴリにおいて PI と NI が、「水（質）」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」のカテゴリにおいて NI が、「包括的で健全な経済」「経済収束」のカテゴリにおいて PI が発現すると、指摘される。このうち、「文化・伝統」のカテゴリにおいては文化財の破壊等の NI が発現すると指摘されるが、同社グループの事業との関連性が希薄と判断し、検証を省略する。

「住居」のカテゴリにおいては、市民の住環境へのアクセスという PI が発現する。同社が質の高い鋼板を安定供給することによって、この PI の拡大に貢献していると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「11.1:住宅や基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する」

「健康・衛生」のカテゴリにおいては、住環境により市民の健康に寄与するという PI と、鉄鋼製造現場における健康被害や、住環境に有害物質が含まれる場合は市民の健康を害するという NI が発現すると指摘される。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「11.1:住宅や基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する」

「雇用」のカテゴリにおいては、労働によって従業員の生活が支えられるという PI と、労働環境によっては従業員の健康状態が脅かされるという NI が発現する。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「エネルギー」のカテゴリにおいては、建物の建築によりエネルギーのアクセスへ寄与するというPIと、建物建築の方法や様式によってはエネルギーへのアクセスが阻害されるというNIが発現する。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.1:エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する」

「人格と人の安全保障」のカテゴリにおいては、建物施工の際に事故が発生した場合は従業員の安全が脅かされるというNIが発現する。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「水（質）」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」等の環境的側面においては、鉄鋼製造のプロセスで、水質汚染、大気汚染、土壌汚染、生態系の破壊、エネルギーの過剰な利用、温室効果ガスの排出、廃棄物の発生等のNIが発現する。同社は、省エネルギーやリサイクル、製品包装の簡易化等を推進し、これらのNIの緩和に努めている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「6.3:汚染の減少、投棄廃絶と有害な化学物質や物質の放出の最小化等により、水質を改善する」
- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.5:廃棄物の発生を減らす」
- ・「13.1:気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応力を強化する」
- ・「15.1:陸域・内陸淡水生態系及びそのサービスの保全・回復・持続可能な利用を確保する」

「包括的で健全な経済」「経済収束」のカテゴリにおいては、同社が鋼板を安定供給することにより、経済が活性化するというPIが発現する。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」

また、インパクトレーダー上では指摘されないが、同社が「冷えルーフ」や「ソーラーカーポート」などの各種環境配慮型商品を展開することで、「資源効率・安全性」や「気候」等の環境的側面に正の影響をもたら

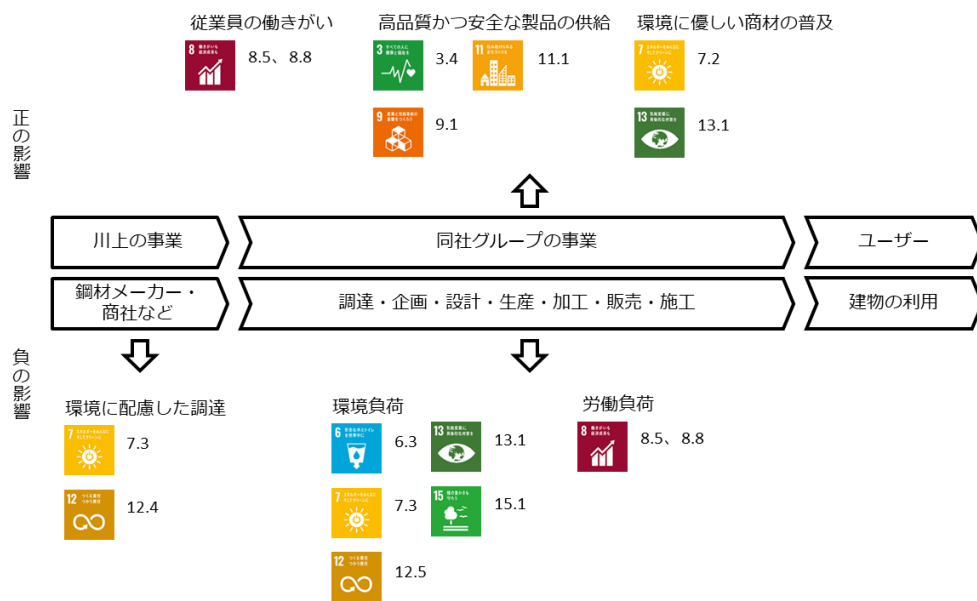
らしていると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.2:再生可能エネルギーの割合を増やす」
- ・「13.1:気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応力を強化する」

(4)特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトマッピング」の結果を踏まえて、同社のバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえて同社のインパクトを下記のように特定した。

- 環境に配慮した事業活動
- 環境に優しい商材の普及
- 高品質かつ安全な製品の供給
- 地域貢献
- 安全・安心な職場環境の整備

■ 環境に配慮した事業活動

同社は自社事業から発生する環境負荷に配慮した事業活動を実践している。

社内照明については、ほぼ全てをLEDに切り替えており、工場内のフォークリフトの一部にEV車を導入し、自社で消費するエネルギーの削減に努めている。

また、自社工場や施工現場、オフィスなどから排出される廃棄物についても、適切に管理・分別を実施し、循環型社会の実現に取り組んでいる。加えて、製品梱包の簡易化や顧客に納入した製品の木材スキット¹を回収しリサイクルすることなどによって、顧客から生じる廃棄物の削減にも積極的に関わっている。

今後については、工場内のフォークリフトのEV化を更に進めるとともに、産業廃棄物関連法規を遵守し、各種帳票類の電子化によるペーパーレス、製品包装簡易化、木材スキット回収などの取組みをより一層推進することによって、自社事業から生じる環境負荷を適切に管理・削減する方針である。

このインパクトはUNEP FIのインパクトレーダーでは、「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境的側面においてNIを緩和すると考えられる。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.5:廃棄物の発生を減らす」
- ・「13.1:気候関連災害や自然災害に対する強靱性と適応能力を強化する」

¹ 木材スキット：製品を運搬するための木枠のこと。

■ 環境に優しい商材の普及

同社グループのカケフ住建では、再生エネルギー普及に資する商材を展開しており、社会的・環境的側面においてポジティブな影響をもたらしている。

具体的には、「野立て架台」や「営農型架台」、「カーポート架台」などバリエーション豊富な商材を取り揃え、ゴルフ場跡地や農地、商業施設や企業の駐車場などあらゆる場所への設置実績を有している。

また、再生可能エネルギーの分野においても商品バリエーションを拡大しており、太陽光架台は他の商材と同様に、現地調査から構造設計、部材納入まで自社対応が可能であるとともに、太陽光発電導入の際の経済産業省への申請手続きや事前のモックアップ試験²などのサポートも提供している。

このインパクトはUNEP FIのインパクトレーダーでは、「エネルギー」「資源効率・安全性」「気候」のカテゴリに該当し、社会的・環境的側面においてPIを拡大すると考えられる。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.2:再生可能エネルギーの割合を増やす」
- ・「13.1:気候関連災害や自然災害に対する強靱性と適応能力を強化する」

●野立て架台



(出所：カケフ住建 HP)

●営農型架台



(出所：カケフ住建 HP)

●カーポート架台



(出所：カケフ住建 HP)

² モックアップ試験：試作品模型による試験のこと。

■ 高品質かつ安全な製品の供給

同社グループは、高品質かつ安全な製品の供給に努めることで、社会的・経済的側面においてポジティブな影響をもたらしている。

同社グループのコイルセンター事業を担うカケフ鋼板においては、「バリつぶし」、「粘着ロールによるゴミ取り」、「フィルム貼り」等の処理を鋼板に施しており、キズや汚れの発生防止を徹底しているとともに、仕上がりの美しさはもちろんのこと、鋼板を使用する工場や施工現場での安全性にも配慮している。

また、住宅建材事業を担うカケフ住建においては、企画・設計・調達・加工・施工・開発までの一貫体制を整備し、顧客の多様なニーズに応えている。

上記のカケフ鋼板並びにカケフ住建の2社のいずれもISO9001(品質マネジメントシステム)認証を取得しており、高品質な製品を供給する体制構築に余念がない。

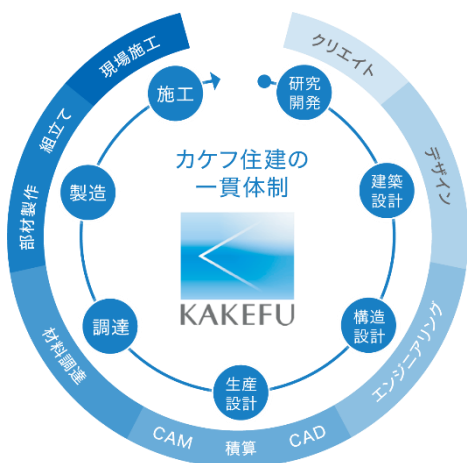
また、その他の事業会社についても、長年培ってきたノウハウと最新設備によって、同水準を保持している。

このインパクトはUNEP FIのインパクトレーダーでは、「住居」「健康・衛生」「包括的で健全な経済」「経済収束」のカテゴリに該当し、社会的・環境的側面においてPIを拡大すると考えられる。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「3.4:非感染性疾患による若年死亡率を減少させ、精神保健・福祉を促進する」
- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」
- ・「11.1:住宅や基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する」

●カケフ住建の一貫体制



(出所：カケフ住建 HP)

■ 地域貢献

同社グループは、岐阜県可児市を中心に、様々な地域貢献活動を行っている。

具体的には、インターンシップの開催による地域の学生への職場体験の機会の提供や、地域の産業フェアへの協賛による可児市の魅力向上と PR など、積極的な取り組みを行ってきた。

今後についても、インターンシップと、新卒採用を継続して行い、地域の雇用創出に努めていく方針である。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面において PI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

■ 安全・安心な職場環境の整備

同社グループは、従業員の労働負荷についても適切に管理し、安全・安心な職場環境の整備に努めている。

グループ安全委員会を月に 1 回必ず開催するとともに、年に 1 回の KY 活動³を実施することで、労働災害の未然防止に努めている。

また、年に一度の定期健康診断についても、一部パート従業員を除く全ての従業員が必ず受診することを徹底しており、従業員の健康衛生の増進にも努めている。

今後についても、引き続いて従業員の労働安全衛生の徹底に努めるとともに、残業時間の削減や男性社員の育児休暇取得を推進し、従業員が安全・安心に働くことができる環境の整備を行っていく方針である。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは、「雇用」のカテゴリに該当し、社会的側面において NI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

³ KY（危険予知）活動：現場作業中の危険有害要因の特定と、その対策について話し合い、危険を回避することを目的とした活動のこと。

(5)インパクトニーズの確認

①日本におけるインパクトニーズ

同社の売上高の大半が日本国内におけるものである。国内における SDG インデックス& ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと同社のインパクトとの関係性を確認した。

本 PIF において特定したインパクトに対応する SDGs のゴールは、以下の 7 点である。

- ・「3:あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
- ・「7:すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
- ・「8:包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
- ・「9:強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
- ・「11:包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
- ・「12:持続可能な生産消費形態を確保する」
- ・「13:気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」

国内における SDG ダッシュボード上では、「12」「13」に関しては「大きな課題が残る」、「7」に関しては「重要な課題が残る」、「3」「8」「11」に関しては「課題が残る」とされており、再生可能エネルギー普及に資する商材を展開していく取組みや、環境負荷低減の取組みなどが、日本国内におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。



(出所：SDSN)

②岐阜県におけるインパクトニーズ

また、同社の事業活動が地元岐阜県を中心として行われているため、「岐阜県 SDGs 未来都市計画」を参照し、岐阜県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。

下記のとおり、岐阜県は「豊かな自然との共生による地域づくり」「県民所得の向上と技術革新への対応」「人口減少・少子高齢化に伴う担い手の確保」を SDGs 達成に向けての課題とするなか、同社の「環境にやさしい商材の普及」や「安全・安心な職場環境の整備」等の取組みは、岐阜県におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

「岐阜県 SDGs 未来都市計画」より今後取り組む課題を抜粋

1. 環境：豊かな自然との共生による地域づくり

- 地球温暖化対策や気候変動適応対策の推進
- プラスチックごみ対策の推進や食品廃棄物対策の推進
- 豊かな自然環境の保全と利用
- 「長良川システム」の持続的な発展に向けた取組み
- 「常態化する想定外」の災害への備えの推進

2. 経済：県民所得の向上と技術革新への対応

- 各政策分野における IoT やビッグデータ、AI の活用など、Society5.0 の実現による新たな付加価値の創出と県民所得の向上
- 本県出身の外交官「杉原千畝」氏をテーマとした人道観光や中部山岳国立公園の魅力増進など、歴史・文化、自然、産業といったテーマ性を持った旅行商品の造成と、その魅力の国内外への発信、競争力の高い観光地域づくり等による観光の基幹産業化

3. 社会：人口減少・少子高齢化に伴う担い手の確保

- 性差、障がいの有無、国籍、年齢等に関わらず誰もが活躍できる社会の確立
- 小・中学校に加え、全ての高等学校における教育段階に応じたふるさと教育の展開



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認

ここでは特定した PI について追加性があること、十六銀行の SDGs の取組みと方向性が同じであることを確認する。本 PIF で特定した PI は「環境に優しい商材の普及」「高品質かつ安全な製品の供給」「地域貢献」の 3 点である。

「環境に優しい商材の普及」では、再生可能エネルギー推進に資する商材の普及活動に努め、ユーザーから生じる環境的側面のネガティブな影響を低減していく。

「高品質かつ安全な製品の供給」では、高品質な製品の供給に努め、ユーザーにより良い暮らしを提供していく。

「地域貢献」では、インターンシップや採用活動を通じて、地域の雇用創出に努めていく。

以上から、上記の PI は SDGs を達成するために、効果が期待できる取組みであり、追加性があるものと評価できる。

十六フィナンシャルグループでは、「十六フィナンシャルグループ SDGs 宣言」の中で「地域社会の活性化」「地域社会の持続的発展」「多様な人材の活躍推進」「環境保全と気候変動対策」「ガバナンスの高度化」の 5 つを SDGs 達成に向けた重点課題（マテリアリティ）としている。

本 PIF で特定したインパクトは「環境に優しい商材の普及」については「環境保全と気候変動対策」と、「高品質かつ安全な製品の供給」については「地域社会の持続的発展」と、「地域貢献」については「多様な人材の活躍推進」と、それぞれ方向性が一致する。

以上から、本 PIF の取組みは追加性のある PI 創出支援を行うものであり、その本源的目的との合致を確認したうえで SDGs 達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることを目指すものである。






人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

3. インパクトの評価

■ 環境に配慮した事業活動

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクト・カテゴリ	「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	  
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・各帳票の電子化により、ペーパーレス化を推進する。 ・産業廃棄物処理の法規遵守に努める。 ・フォークリフトの EV 化を推進する。 ・製品の簡易包装化を推進する。 ・木材スキットのリサイクルを推進する。
KPI	<p>【カケフホールディングス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030 年までにコピー機のカウンター数を 2023 年比で 20%削減する。 ・廃棄物関連法規違反 0 件を維持していく。 <p>【メト-カケフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030 年までに自社所有フォークリフトを全て EV 化する。 <p>【カケフ鋼板】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030 年までに簡易梱包納入取引先数を 6 先以上とする。 (現状 2 先) ・2030 年までに木材スキット回収取引先数を 7 先以上とする。 (現状 3 先)





人と、地域と、未来をむすぶ




十六総合研究所

16FG

■ 環境に優しい商材の普及

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 環境的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクト・カテゴリ	「エネルギー」「資源効率・安全性」「気候」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	・再生可能エネルギー推進に資する商品を新たに開発する。
KPI	【カケフ住建】 ・2030 年までに再生可能エネルギー推進に資する商材を新たに 2 タイプ開発し、発売する。

■ 高品質かつ安全な製品の供給

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大 経済的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクト・カテゴリ	「住居」「健康・衛生」「包括的で健全な経済」「経済収束」
関連する SDGs	  
内容・対応方針	・高品質な製品を提供する生産体制を維持していく。
KPI	【カケフ住建・カケフ鋼板】 ・ISO9001（品質マネジメントシステム）認証を維持していく。

■ 地域貢献

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクト・カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の学生に対して職場体験の機会を提供する。 ・地域の雇用機会を創出する。
KPI	<p>【カケフホールディングス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年インターンシップを開催する。 ・毎年の新卒採用を継続していく。 ・2024 年から 2030 年まで累計 10 名以上新規採用する。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

■ 安全・安心な職場環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクト・カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・残業時間の削減を推進する。 ・従業員の育児休暇の取得を推進する。 ・従業員の労働安全衛生を徹底する。
KPI	<p>【カフェホールディングス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに月に1度以上のノー残業デーを新設する。 ・男性社員の育児休暇の取得を推進し、希望者については100%の取得を目指す。 ・定期健康診断受診者100%を継続する。 (※一部パート社員を除く) ・毎年の重大労災事故(被災者の休業が4日以上となる事故)発生件数を低減していく。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

4. モニタリング

(1)カケフホールディングスにおけるインパクトの管理体制

同社グループでは、本 PIF 組成に当たり、カケフホールディングスより 2 名、メト-カケフより 8 名、スタールカケフより 3 名、カケフ鋼板より 3 名、カケフ鋼板より 3 名、合計 19 名のプロジェクトメンバーを選出。会社毎にプロジェクトリーダーを選定し、プロジェクトリーダーを中心にインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。

今後についても、各事業会社それぞれが主体となって SDGs を推進し、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

【モニタリング体制】

統括責任者	代表取締役 掛布 拓雄
推進責任者	経営企画部 部長 山岡 英史
プロジェクトリーダー	【カケフホールディングス】 管理本部 管理課 課長代理 松高 英樹 【メト-カケフ】 業務課 課長 兼 製造流通課 副工場長 両部 めぐみ 【スタールカケフ】 製造部 執行役員部長 纈纈 達也 【カケフ鋼板】 営業部 営業課 課長代理 渡邊 光明 【カケフ住建】 住宅建材事業部 企画開発営業課 課長 古澤 輝美

(2)当社によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と十六銀行、十六総合研究所の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、十六総合研究所が現時点で入手可能な公開情報、カフェホールディングスから提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 十六総合研究所が本評価に際して用いた情報は、十六総合研究所がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。十六総合研究所は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は十六総合研究所に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所